

平成18年入域観光客統計概況

平成19年1月18日
沖縄県観光商工部

平成18年入域観光客数 5,636,900人(過去最高)
・対前年比 +2.5%(+136,800人)

1. 国内外・主要航路別入域状況

国内:	5,544,400人	(対前年比 + 3.4%)
国外:	92,500人	(同 △32.2%)
合計:	5,636,900人	(同 + 2.5%)

〈国内主要航路別状況〉

東京(方面):	2,571,400人	(対前年比 +4.6%)
関西(方面):	1,095,400人	(同 +5.1%)
福岡(方面):	679,200人	(同 △0.2%)
名古屋:	486,300人	(同 +1.8%)
札幌:	71,000人	(同 △2.9%)

2. 平成18年の概況

国内客については、新空港の開港に伴う新規路線開設による輸送能力の増加、宿泊施設の増加、官民一体となった誘客キャンペーン、修学旅行の増加、沖縄の自然風土、独自の音楽、芸能文化などに引き続き全国の関心が集まっていることを背景に、県内外の豪雨災害の影響にもかかわらず、554万4,400人と対前年比プラス3.4%、18万800人増加した。

外国客については、前年実績を下回ったが、韓国から初めて1万人を超える入域観光客数を迎え、中国についても着実に実績を上げてきている。

年間の入域観光客数は、海外からの定期クルーズ船の運休があったにもかかわらず、国内旅行客の伸びに支えられ、ほぼ目標を達成した。

〈主な要因〉

- 新規路線の開設による提供座席数の増加
- 宿泊施設数の増加
- 官民一体となった誘客キャンペーン
- 修学旅行の増加
- 第4回太平洋・島サミット、第4回世界のウチナーンチュ大会の開催
- 沖縄の音楽、文化、芸能、食材等への全国的な関心の継続

入域観光客統計概況

—平成18年1月分—

平成18年 2月21日
沖縄県観光商工部

1月の入域観光客数は、417,300人。前年同月比は+6.3% (+24,900人)で、1月として初めて40万人を突破し、同月の過去最高を記録した。

1. 国内外別入域状況

国内： 409,200人 前年同月比 + 5.4 % (+21,100人)
海外： 8,100人 前年同月比 +88.4 % (+ 3,800人)

2. 主要航路別入域状況

東京	182,800人	前年同月比	+ 5.5%	(+ 9,500人)	構成比	43.8%
伊丹	37,400人	前年同月比	△15.6%	(△ 6,900人)	構成比	9.0%
関西	38,900人	前年同月比	+55.6%	(+13,900人)	構成比	9.3%
福岡	53,800人	前年同月比	+ 2.3%	(+ 1,200人)	構成比	12.9%
名古屋	38,600人	前年同月比	+ 5.8%	(+ 2,100人)	構成比	9.2%
札幌	6,900人	前年同月比	+ 6.2%	(+ 400人)	構成比	1.7%

3. 概況と見通し

1月の入域観光客数の概況としては、国内客については、増便や使用機材の大型化により提供座席数が増加したこと、離島直行便の輸送実績が好調に推移したこと、1月上旬に3連休が2回あったことなどにより前年実績を上回った。

外国客については、台湾や韓国からのチャーター便が運航されたことなどにより、前年実績を大幅に上回った。

今後の見通しとしては、国内客については、2月上旬までの航空旅客輸送実績が好調に推移していること、新空港開港に伴う新規路線開設により輸送力が拡大すること、プロ野球キャンプなどによるマスコミへの露出拡大が期待されることなどから、前年実績を上回ると見込まれる。

外国客については、昨年2月だった、旧正月の休暇時期に合わせたチャーター便の運航が今年はないことなどから、若干弱含みで推移すると見込まれる。

担当：観光企画課 上原
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 正月休み明けの割安旅行商品や、民間による大型イベントの集客が好調だったことに加え、団体旅行商品などが好調に推移したことなどから昨年実績を上回った。
- 2月は、卒業旅行など個人旅行が好調に推移していることなどから昨年実績を上回ると見込まれる。

大阪事務所 (大阪地区)

- 1月は3連休が2回あったこと、離島人気が続いていることなどにより前年実績を上回った。
- 春季プロ野球キャンプが県内各地で行われていること、神戸空港開港による新規旅行商品が販売されることなどにより好調に推移すると見込まれる。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 1月後半は、民間による大型イベントの集客が好調に推移し、さらに個人旅行商品が好調であったことなどにより前年実績を上回った。
- 大手旅行代理店によると、2月の状況はあまり良くないとのことであるが、3月は新北九州空港が開港することなどにより、前年実績を維持すると見込まれる。

名古屋事務所 (名古屋地区)

- 提供座席数が大幅に伸びていることなどから、前年実績を上回った。
- 2月は修学旅行などが好調に推移しており、前年実績を上回る見込みである。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 直行便の使用機材の大型化などにより前年実績を上回った。
- 2月上旬までは直行便の使用機材が大型化していること、経由便を利用した沖縄キャンペーンが行われていることなどにより、2月、3月は好調に推移しているとのことである。

2. 海外

台北事務所

- 春節の休暇に合わせチャーター便が運航されたこと、情報誌への記事掲載の効果により個人旅行客が増加したことなどにより前年実績を大幅に上回った。
- 昨年は2月だった春節の休暇が今年は1月末だったため、2月は前年を若干下回ると見込まれる。

韓国事務所

- ゴルフ目的の団体客やツアー客が増加しており、チャーター便が9便運航されたこと、小規模のインセンティブツアーが行われたことなどにより前年実績を上回った。
- 2月以降は、航空運賃や宿泊費の値上げにより、価格面で競争力が弱くなることから、送客に苦戦する見込みである。

上海事務所

- 上海企業の社員旅行先が沖縄となったこと、民間企業が上海有力旅行社の招聘を行ったことなどにより前年実績を上回った。
- 上海大手旅行社が、3泊4日の沖縄ツアーを販売中であり、沖縄への団体送客が期待される。
- 今後の沖縄への送客については、航空券の確保が課題である。

入域観光客統計概況

－平成18年2月分－

平成18年3月27日
沖縄県観光商工部

2月の入域観光客数は、435,600人。前年同月比は+3.4% (+14,300人)で、同月としては過去2番目の記録となった。
1月～2月の入域観光客数は、852,900人。前年同期比は+4.8% (39,200人)で、同期間の過去最高記録となった。

1. 国内外別入域状況

国内： 429,400人 前年同月比 + 3.9% (+16,000人)
海外： 6,200人 前年同月比 Δ 21.5% (Δ 1,700人)

2. 主要航路別入域状況

東京： 188,900人	前年同月比 + 3.0%	(+ 5,500人)	構成比43.4%
伊丹： 35,300人	前年同月比 Δ 31.7%	(Δ 16,400人)	構成比 8.1%
関西： 35,900人	前年同月比 +41.3%	(+10,500人)	構成比 8.2%
神戸： 11,800人	新規路線 (平成18年2月16日～運航)		構成比 2.7%
福岡： 55,700人	前年同月比 Δ 2.6%	(Δ 1,500人)	構成比12.8%
名古屋：40,200人	前年同月比 +10.7%	(+ 3,900人)	構成比 9.2%
札幌： 8,500人	前年同月比 Δ 6.6%	(Δ 600人)	構成比 2.0%

3. 概況と見通し

2月の入域観光客数の概況としては、国内客については、神戸空港開港に伴い新規路線が開設されたことや、プロ野球キャンプの誘客効果などにより前年実績を上回った。

外国客については、昨年は2月に運航された、旧正月の休暇時期に合わせたチャーター便の運航が今年は1月末だったことなどから前年実績を下回った。

今後の見通しとしては、国内客については、新空港開港に伴い新規路線が開設されることや、3月中旬までの航空輸送実績が好調に推移していること、卒業旅行や修学旅行が好調であることなどから増加することが予想される。

外国客については、海路については、定期クルーズ船の運休により減少すると見込まれる。

担当：観光企画課 上原
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 2月中旬以降、個人旅行商品が好調に推移したことなどにより入域観光客の増加につながった。
- 3月は、団体旅行、個人旅行商品の予約状況が前年を上回っており、特に宮古、石垣が好調である。

大阪事務所 (大阪地区)

- 神戸空港開港により消費者の旅行マインドが喚起されたことや、プロ野球キャンプによる誘客効果、リゾート地としての沖縄の人気の継続されていることなどにより入域観光客が増加した。
- 大手旅行代理店の申込み状況が前年を上回っており、好調に推移すると見込まれる。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 入域観光客は前年比で若干の減少となっているが、その要因としては、団体旅行や募集型旅行商品、個人旅行商品の伸び悩みなどが挙げられる。
- 3月は団体旅行商品、個人旅行商品ともに順調な伸びを示しており、前年並みの実績を達成する見込みであり、新北九州国際空港の開港により、4月以降も順調に推移する見込みである。

名古屋事務所 (名古屋地区)

- 沖縄人気の継続や、景気の回復などが入域観光客の増加につながった。
- 4月からJALの名古屋路線が減便となるが、機材が大型化するため影響は少ないと考えられる。新型割引運賃の実施などにより、入域観光客数は微増が見込まれる。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 道内の観光市場全体の動向は伸び悩んでいるが、沖縄については好調に推移しており、経路便の実績は2桁台の伸びを示している。
- 3月下旬の予約状況は好調に推移しており、4月以降も直行便が好調に推移する見込みである。

2. 海外

台北事務所

- 昨年は2月だった旧正月の休暇の始まりが、今年は1月だったため前年実績を若干下回った。
- 定期クルーズ船の運航が予定されていないため、海路での入域観光客数は減少する見込みであるが、2月の「台湾・沖縄観光感謝の夕べ」の実施と業界紙広告出稿や台北地区でのバス車体広告などにより、空路による入域観光客は微増が見込まれる。

韓国事務所

- 旧正月の休暇に合わせたチャーター便が今年は1月中に運航されたため、2月は前年実績を下回った。
- 3月からは、気温の上昇など天候的な面でゴルフツアー客が減少しているが、旅行会社15社が共同販売している旅行商品を助成したことにより前年並みの実績を達成する見込みである。

上海事務所

- 旧正月の時期にツアー客を送客できなかったため、前年実績を下回った。
- 3月26日からの減便や運航時間帯の変更が、旅行商品の造成に影響を与えると予想される。

入域観光客統計概況

—平成18年3月分—

平成18年4月27日
沖縄県観光商工部

3月の入域観光客数は、538,900人。前年同月比は+6.4% (+32,200人) で、同月としては過去最高の記録となった。

1月～3月の入域観光客数は、1,391,800人。前年同期比は+5.4% (+71,400人) で、同期間の過去最高記録となった。

1. 国内外別入域状況

国内：532,700人 前年同月比 +6.6% (+32,900人)
海外：6,200人 前年同月比 △10.1% (△700人)

2. 主要航路別入域状況

東京	236,400人	前年同月比	+6.7%	(+14,800人)	構成比	43.9%
伊丹	36,500人	前年同月比	△41.0%	(△25,400人)	構成比	6.8%
関西	43,800人	前年同月比	+38.6%	(+12,200人)	構成比	8.1%
神戸	24,900人	新規路線	(平成18年2月16日～運航)		構成比	4.6%
福岡	65,000人	前年同月比	+0.8%	(+500人)	構成比	12.1%
名古屋	50,600人	前年同月比	+3.9%	(+1,900人)	構成比	9.4%
札幌	10,600人	前年同月比	△13.1%	(△1,600人)	構成比	2.0%

3. 概況と見通し

3月の入域観光客数の概況としては、国内客については、神戸空港開港に伴う新規路線が開設されたことによる関西方面からの伸びが引き続き好調であること、及び北九州空港開港に伴う新規路線が開設されたことなどにより増加した。

外国客については、昨年運航していた定期クルーズ船が運航されなかったことから、今年は減少している。

今後の見通しとしては、国内客については、4月上旬までの航空旅客輸送実績が好調に推移していること、ゴールデンウィークの予約状況も好調であることから前年実績を上回ることが期待される。

外国客については、空路において、台湾からのチャーター便の運航が予定されており、増加することが見込まれる。

担当：観光企画課 糸洲
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 個人旅行、団体旅行商品とも好調な伸びを見せており、前年実績を上回った。特に、宮古、石垣が好調であった。
- 4月は全体的には前年並みの実績で推移すると思われる。GWは日並びの関係で4月がやや弱く、5月に集中しているが全体に予約状況は好調である。

大阪事務所 (大阪地区)

- 神戸空港開港に伴う航空会社及び旅行代理店の沖縄キャンペーンの効果が増加の要因である。
- 4月は新学期及び新年度の初めにつき動きは鈍いが、GW期間中は順調に推移する見込みである。

名古屋事務所 (名古屋地区)

- 3月は旺盛な個人旅行需要と修学旅行に支えられ増加した。
- 4月はパッケージ旅行客が好調に推移しているため増加が見込まれる。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 提供座席数の減少により前年を下回ったが、経路 (羽田) 便を利用した従来より低価格の商品にシフトしていることが推測される。
- 航空会社主導の沖縄キャンペーン期間の3月末終了予定が3月以降も延長され、現在展開中であり増加が見込まれる。

2. 海外

台北事務所

- トランジット客が減少し座席数の確保が容易になったため、航空便の提供座席数が実質的に増え、空路での来沖者数の増加につながった。
- 石垣、那覇へのチャーター便の運航が予定されているが、今年は、定期クルーズ船の運航が予定されていないため、今後、海路での入域観光客数は大幅な減少が懸念される。

韓国事務所

- ダイビング関連の沖縄研修 (92人) があり、増加した。
- 3月下旬から週4便から週5便へと増便となり、また、4月から5月にかけて、沖縄への研修ツアーなどが予定されていることから、順調に推移するものと思われる。

上海事務所

- 大手旅行会社以外でも沖縄ツアーの取扱いも増えてきている。
- 5月には、チャーター便での150人以上のツアーが予定されている。

入域観光客統計概況

—平成18年4月分—

平成18年5月23日
沖縄県観光商工部

4月の入域観光客数は、453,400人。前年同月比は+1.5% (+6,800人)で、同月としては過去最高の記録となった。
1月～4月までの入域観光客数は、1,845,200人。前年同期比は+4.4% (+78,200人)で、同期間の過去最高記録となった。

1. 国内外別入域状況

国内：	447,100人	前年同月比	+12,900人	(+ 3.0 %)
海外：	6,300人	前年同月比	△ 6,100人	(△49.2 %)

2. 主要航路別入域状況

東京：	197,700人	前年同月比	+ 3,200人	(+ 1.6%)	構成比43.6%	
関西方面：	92,600人	前年同月比	+ 4,400人	(+ 5.0%)	構成比20.4%	
(内訳)	伊丹：	26,500人	前年同月比	△32,500人	(△55.1%)	構成比 5.8%
	関西：	46,200人	前年同月比	+17,000人	(+58.2%)	構成比10.2%
	神戸：	19,900人	新規路線	(平成18年2月16日～運航)		構成比 4.4%
福岡方面：	53,400人	前年同月比	+ 1,300人	(+ 2.5%)	構成比11.8%	
(内訳)	福岡：	50,900人	前年同月比	△ 1,200人	(△ 2.3%)	構成比11.2%
	北九州：	2,500人	新規路線	(平成18年3月16日～運航)		構成比 0.6%
名古屋：	40,100人	前年同月比	+ 1,400人	(+ 3.6%)	構成比 8.8%	
札幌：	7,200人	前年同月比	+ 900人	(+14.3%)	構成比 1.6%	

3. 概況と見通し

4月の入域観光客数の概況としては、国内客については、神戸など新規路線、及び修学旅行が順調に推移しているため増加している。

外国客については、昨年運航していた定期クルーズ船の運航休止により、ほぼ半減となった。

今後の見通しとしては、梅雨の時期に入り、大幅な増加は見込めないが、5月の修学旅行の予約状況が好調であることなどから堅調に推移すると見込まれる。

外国客のうち、空路については、台湾からのチャーター便の運航が予定されており、増加することが見込まれる。

担当：観光企画課 糸洲
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 個人旅行商品が好調に推移したことにより、前年実績を上回った。
- 5月は前半は順調に推移しているが、後半の動きが若干弱い。全体的には前年並みの実績で推移すると思われる。

大阪事務所 (大阪地区)

- 神戸空港開港に伴う航空会社及び旅行代理店の沖縄キャンペーンの効果及び、GWにおける臨時便の運航が増加の要因である。
- 5月は修学旅行生が増加するため、全体的には増加が見込まれる。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 4月はレンタカー付きの商品が人気で個人旅行商品は伸びている。北九州路線も順調に推移している。
- 個人旅行、及び団体旅行商品とも伸びがややにぶいが、全体的には前年並みの実績で推移すると思われる。

名古屋事務所 (名古屋地区)

- セントレア空港開港の影響も落ち着いてきたが、沖縄人気に支えられ増加している。
- 梅雨時の沖縄を避けて他地域へのシフトが見られるが、5月は順調に推移すると思われる。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 4月より提供座席数が増えたことにより前年を上回った。
- GW明けより直行便の旅客数の伸びがやや鈍い。経路便利用の商品の低価格化が進んでおり、観光客数は増加の傾向にある。

2. 海外

台北事務所

- 海路では定期クルーズ船の運行がなかったため大幅な減少となった。空路ではトランジット客が減少し座席数の確保が容易になったため、若干、増加した。
- 空路については、石垣、那覇へのチャーター便の運航が予定されており、増加が見込まれるが、7月より、台北-大阪、名古屋などの幹線の新規及び増便が予定されているため、影響が懸念される。

韓国事務所

- 3月下旬よりの航空機の増便及び時間帯の変更を受け、旅行商品の多様化が進み増加した。大学の研修や組合のツアーも増加の要因である。
- 6月までは提供座席数が増えたことにより価格が抑えられており、増加の見込みであるが、夏のシーズンに向けて航空運賃や宿泊費の値上げ及び宿泊施設の確保が懸念される。

上海事務所

- 大手旅行会社以外での沖縄ツアーの取扱いが増えてきたことなどにより増加した。
- 沖縄の知名度向上を図るため、様々な誘客プロモーションを強力に推進する。

入域観光客統計概況

—平成18年5月分—

5月の入域観光客数は、417,900人。前年同月比は+0.8% (+3,500人)で、同月としては過去最高の記録となった。
 1月～5月までの入域観光客数は、2,263,100人。前年同期比は+3.7% (+81,700人)で、同期間の過去最高記録となった。

1. 国内外別入域状況

国内：	410,100人	前年同月比	+11,700人	(+2.9%)
海外：	7,800人	前年同月比	△8,200人	(△51.2%)

2. 主要航路別入域状況

東京：	164,900人	前年同月比	+300人	(+0.2%)	構成比39.5%	
関西方面：	97,700人	前年同月比	+4,700人	(+5.1%)	構成比23.4%	
(内訳)	伊丹：	27,300人	前年同月比	△39,400人	(△59.1%)	構成比6.5%
	関西：	48,500人	前年同月比	+22,200人	(+84.4%)	構成比11.6%
	神戸：	21,900人	新規路線	(平成18年2月16日～運航)	構成比5.2%	
福岡方面：	50,600人	前年同月比	+2,300人	(+4.7%)	構成比12.1%	
(内訳)	福岡：	48,300人	前年同月比	0人	(0%)	構成比11.6%
	北九州：	2,300人	新規路線	(平成18年3月16日～運航)	構成比0.6%	
名古屋：	35,200人	前年同月比	+1,600人	(+4.8%)	構成比8.4%	
札幌：	6,000人	前年同月比	+200人	(+3.4%)	構成比1.4%	

3. 概況と見通し

5月の入域観光客数の概況としては、国内客については、北九州などの新規路線、及び修学旅行生が順調に推移しているため堅調に推移した。

外国客については、昨年運航していた定期クルーズ船の運航休止の影響が顕著になってきているが、空路においては若干増加している。

今後の見通しとしては、夏場の旅行商品の予約状況が好調なことから増加することが見込まれる。

外国客については、空路においてチャーター便の運航が予定されており、増加することが見込まれる。

担当：観光企画課 糸洲
 TEL 098-866-2763
 FAX 098-866-2767

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- GWは順調に推移したが、中旬以降の個人旅行商品の伸びが鈍く、前年並みの実績となった。
- 6月は大手旅行社の集客が伸び悩んでいるが、夏休み商品の動きは良いため7月～8月は好調に推移すると思われる。

大阪事務所 (大阪地区)

- 神戸空港開港による提供座席数の増加、修学旅行の増加及び、修学旅行生が利用する便以外へ団体客を誘導したことも増加の要因と思われる。
- 6月は梅雨の時期であること及び長雨のニュースの影響が懸念されるが、夏休み商品は好調に推移している。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 個人旅行商品は順調に推移したが、団体旅行商品の動きがやや鈍く、前年並みの実績となった。
- 6月前半は前年より好調に伸びていたが、沖縄地方の大雨のニュースの影響が懸念される。

名古屋事務所 (名古屋地区)

- GWの日並びの良さが昨年実績を上回った要因と思われる。
- 6月は大雨のニュースの影響が懸念されるが、7月以降は本格的な夏の観光シーズンを迎えることから順調に推移すると思われる。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- GWの実績が順調に推移したため全体を牽引したことが増加の要因である。
- 6月から8月までは直行便が運休するため、経由便利用の商品が基本となる。6月は前年比較で微減傾向にある。

2. 海外

台北事務所

- 海路においては海事専門学校の実習旅行があった。トランジット客の減少により団体客の配分が増え、空路は若干増加した。
- 定期クルーズ船の運航がないため増加を見込むことは厳しいが、6月、7月には空路においてチャーター便の運航が予定されている。

韓国事務所

- 十数社の旅行社で販売する商品の売れ行きが好調なことや現地の旅行会社等が様々な商品開発に取り組み、積極的に販売していることが増加の要因である。
- ワールドカップの影響や夏場の宿泊施設確保が懸念されるが、提供座席数が増加したこと及び那覇市内のホテルを利用するツアーも増えてきたため、好調に推移すると思われる。

上海事務所

- 労働節連休期間中にチャーター便ツアーの送客があったことが大幅増加の要因である。
- 7月までは閑散期にあたるが、8月以降は沖縄ツアーが企画予定されている。

入域観光客統計概況 —平成18年6月分—

6月の入域観光客数は、404,300人。前年同月比は△3.0% (△12,400人) で、同月としては過去2番目の記録となった。
1月～6月までの入域観光客数は、2,667,400人。前年同期比は+2.7% (+69,300人) で、同期間の過去最高記録となった。

1. 国内外別入域状況

国内：397,400人	前年同月比	△900人	(△0.2%)
海外：6,900人	前年同月比	△11,500人	(△62.5%)
合計：404,300人	前年同月比	△12,400人	(△3.0%)

2. 主要航路別入域状況

東京：181,400人	前年同月比	+900人 (+0.5%)	構成比44.9%
関西方面：84,300人	前年同月比	+3,200人 (+3.9%)	構成比20.9%
(内訳) 伊丹：23,700人	前年同月比	△32,000人 (△57.5%)	構成比5.9%
関西：42,500人	前年同月比	+17,100人 (+67.3%)	構成比10.5%
神戸：18,100人	新規路線 (平成18年2月16日～運航)		構成比4.5%
福岡方面：50,200人	前年同月比	△2,100人 (△4.0%)	構成比12.4%
(内訳) 福岡：47,900人	前年同月比	△4,400人 (△8.4%)	構成比11.8%
北九州：2,300人	新規路線 (平成18年3月16日～運航)		構成比0.6%
名古屋：34,900人	前年同月比	△1,900人 (△5.2%)	構成比8.6%

3. 概況と見通し

6月の入域観光客数の概況としては、国内客については、上旬の長雨の影響が懸念されたが、微減にとどまった。

外国客については、昨年運航していた定期クルーズ船の運航休止の影響が顕著になってきている。

今後の見通しとしては、夏場の旅行商品の予約状況が好調なことから堅調に推移すると見込まれる。

外国客については、空路においては、チャーター便の運航やツアーの企画が予定されており、増加することが見込まれる。

担当：観光企画課 糸洲
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 天候不良やワールドカップの影響で個人旅行商品の伸びが鈍かったが、団体旅行商品の伸びが良く、前年並みの実績となった。
- 台風の影響が懸念されるが、家族旅行を中心に夏休み商品の動きは良いため、好調に推移すると思われる。旅行社によるJR車内での沖縄キャンペーンも予定されている。

大阪事務所 (関西地区)

- 長雨のニュースの影響によりツアーキャンセルが多かったが、神戸空港開港に伴う提供座席数の増加、及び神戸発沖縄観光ツアーの積極的なセールスの効果で増加した。
- 夏休み商品は好調に推移しているが、昨年と比較して伸びは幾分、鈍い傾向にある。

福岡案内所 (九州・山口地区)

- 昨年が突出して好調であったため前年同月比は減少しているが、6月としては過去5年間で2番目であった。長雨の影響と併せて、九州全域の集中豪雨の影響も大きかった。
- 長雨のニュースの流れている時期の申込みがかなり悪かったが、離島への申込みは増えている傾向にあるため、堅調に推移していくと思われる。

名古屋情報センター (名古屋地区)

- 梅雨の影響で旅行を控えた人が多かったこと、及び6月の旅行料金の価格が上がってきていることから7月にシフトしたことが減少の要因と思われる。
- 7月は家族旅行が好調であるが、台風の影響が懸念されること、及び臨時便の設定がないことから若干落ち込みが予想される。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 6月から直行便は運休しているが、経由便はほぼ前年並みに推移していると思われる。
- 新たな格安商品が7月下旬～9月末に設定されているため、その動向が注目される。

2. 海外

台北事務所

- 定期クルーズ船の運航がないため海路においての減少は著しいが、空路において、チャーター便の運航が7月以降となっていることも減少の一因となっている。
- 台湾から日本全体への訪問者数も全体的にマイナスとなっており、その上、航空会社等が大阪や名古屋等への新規、増便路線に販売を強化させているため苦戦が予想される。

韓国事務所

- 複数の旅行社で販売する連合商品の売れ行きが好調なこと、及びハネムーンツアーも好調なことから増加した。
- 那覇市内のホテルを利用するツアーも増えてきたこと、及びフェリーフライトを利用した企画商品の売れ行きも好調なことから増加すると思われる。

上海事務所

- 沖縄ツアーを取り扱う旅行社も増えてきたが、提供座席数が少なく席を確保しづらくことが商品を組み立てることの難しさにつながっている。
- 7月以降に沖縄へのツアーが企画されているため増加が見込まれる。

入域観光客統計概況

-平成18年7月分-

7月の入域観光客数は、460,400人。前年同月比は△3.8% (△18,300人) で、同月としては過去2番目の記録となった。

1月～7月までの入域観光客数は、3,127,800人。前年同期比は+1.7% (+51,000人) で、同期間の過去最高記録となった。

1. 国内外別入域状況

国内：	452,600人	前年同月比	△9,400人	(△2.0%)
海外：	7,800人	前年同月比	△8,900人	(△53.3%)
合計：	460,400人	前年同月比	△18,300人	(△3.8%)

2. 主要航路別入域状況

東京：	226,200人	前年同月比	△300人	(△0.1%)	構成比49.1%	
関西方面：	91,200人	前年同月比	±0人	(±0%)	構成比19.8%	
(内訳)	伊丹：	30,500人	前年同月比	△30,200人	(△49.8%)	構成比6.6%
	関西：	41,700人	前年同月比	+11,200人	(+36.7%)	構成比9.1%
	神戸：	19,000人	新規路線	(平成18年2月16日～運航)	構成比4.1%	
福岡方面：	52,000人	前年同月比	△3,000人	(△5.5%)	構成比11.3%	
(内訳)	福岡：	49,300人	前年同月比	△5,700人	(△10.4%)	構成比10.7%
	北九州：	2,700人	新規路線	(平成18年3月16日～運航)	構成比0.6%	
名古屋：	38,400人	前年同月比	△2,000人	(△5.0%)	構成比8.3%	

3. 概況と見通し

7月の入域観光客数の概況としては、国内客については、6月の長雨に続き、相次いで発生した台風が減少の要因と思われる。

外国客については、昨年運航していた定期クルーズ船の運航休止の影響が顕著になっている。

今後の見通しとしては、台風が相次いで発生しており、その影響が懸念される。

外国客は、空路については、チャーター便によるツアー等が企画されており、堅調に推移するものと期待される。

担当：観光企画課 糸洲
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 台風の影響によりキャンセルが発生したが、大手旅行社の個人旅行商品の伸びがあつて、ほぼ前年並みの実績で推移した。
- 8月は家族旅行は順調に推移しているが、全体的に去年の伸びが見られないことから前年を若干下回ることが懸念されるが、9月以降の予約状況は良い。

大阪事務所 (関西地区)

- 提供座席数の増加にもかかわらず、6月の沖縄地方の長雨による認識の影響がまだ続いている状況にあることが、伸び悩んでいる要因と思われる。
- 海外旅行へシフトしている傾向があり、予約状況は伸び悩んでいる。

福岡案内所 (九州・山口地区)

- 福岡及び近県地域における長雨の影響が大きく、そのため全体的に旅行意欲が低下していることが減少の要因である。
- 個人旅行商品がほぼ前年並みの予約状況であるが、立て続けに台風が発生したこともあり、不透明な状況である。

名古屋情報センター (名古屋地区)

- 台風シーズンをさけて、海外などへシフトする傾向が見受けられたのが、減少の要因と思われる。
- 去年の愛知万博の効果の反動もあると思われるが、若干落ち込みが予想される。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 直行便は運休しているが、経由便では前年を上回った模様と思われる。
- 9月より直行便が再開されるため、期待される。

2. 海外

台北事務所

- 海路においての減少は定期クルーズ船の運航がないため著しいが、空路においてもチャーター便の運航が昨年より少なかったため若干減少した。
- 台風の影響で運休が出ていること、及び航空会社等の販売路線の新規路線への集中があり、苦戦が予想される。

韓国事務所

- フェリーフライトを利用した企画商品の売れ行きが好調だったこと、及び料金的にも利用しやすいツアーが増えていることが大幅な増加の要因である。
- ツアーの売れ行きが好調であるため、堅調に推移するものと思われる。

上海事務所

- ツアーが企画されたため、増加した。
- 運航便数の減少や機材の小型化により座席が確保できず、商品造成が難しい状況にあるが、8月以降にツアーが企画されているため、増加すると思われる。

入域観光客統計概況

－平成18年8月分－

8月の入域観光客数は、569,200人。前年同月比は+1.0% (+5,600人)で、単月としても過去最高の記録となった。
 1月～8月までの入域観光客数は、3,697,000人。前年同期比は+1.6% (+56,600人)で、同期間の過去最高記録となった。

1. 国内外別入域状況

国内	561,600人	前年同月比	+12,700人	(+2.3%)
海外	7,600人	前年同月比	△7,100人	(△48.3%)
合計	569,200人	前年同月比	+5,600人	(+1.0%)

2. 主要航路別入域状況

東京	267,400人	前年同月比	+12,200人	(+4.8%)	構成比	47.0%	
関西方面	121,600人	前年同月比	+4,700人	(+4.0%)	構成比	21.4%	
(内訳)	伊丹	41,000人	前年同月比	△37,900人	(△48.0%)	構成比	7.2%
(内訳)	関西	53,200人	前年同月比	+15,200人	(+40.0%)	構成比	9.3%
(内訳)	神戸	27,400人	新規路線	(平成18年2月16日～運航)	構成比	4.8%	
福岡方面	65,700人	前年同月比	△1,000人	(△1.5%)	構成比	11.5%	
(内訳)	福岡	62,200人	前年同月比	△4,500人	(△6.7%)	構成比	10.9%
(内訳)	北九州	3,500人	新規路線	(平成18年3月16日～運航)	構成比	0.6%	
名古屋	49,300人	前年同月比	△2,100人	(△4.1%)	構成比	8.7%	

3. 概況と見通し

8月の入域観光客数の概況としては、国内客については、初旬は台風の影響が懸念されたが、中旬以降、好調に推移し、単月としても過去最高を記録した。外国客については、海路においては定期クルーズ船の影響が顕著になってきているが、空路においては若干、前年同月比で増加した。

今後の見通しとしては、国内客については、予約状況が好調なことから順調に推移するものと見込まれる。

外国客については、空路においては、チャーター便の運航が予定されており、堅調に推移すると見込まれるが、海路においては厳しい状況が続いている。

担当：観光企画課 糸洲
 TEL 098-866-2763
 FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- トップシーズンを迎え、積極的な販促活動を展開したことにより、家族旅行を中心に好調に推移した。
- 9月は団体、個人商品ともに好調に推移している。10月以降は修学旅行シーズンを迎えることから順調に推移するものと思われる。

大阪事務所 (関西地区)

- 昨年同時期より提供座席数が増えたこと、夏休みによる需要増及び低価格競争による旅行需要が増加したことにより好調に推移した。
- 昨年と比較して、伸びは幾分鈍い傾向にあるが、堅調に推移するものと思われる。

福岡案内所 (九州・山口地区)

- お盆の頃に集中したツアー予約客が昨年と違い、キャンセル待ちをせず他の観光地へと振り替えた傾向にあることが減少の要因と思われる。
- 団体商品等の販売状況は前年並みであるので、堅調に推移すると思われる。

名古屋情報センター (名古屋地区)

- 提供座席数の減少が前年を下回った要因と思われる。
- 予約状況としては昨年並みに推移するものと思われる。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 先月同様、経路便利用で各航空会社とも前年を上回っている模様である。
- 9月より経路便利用による低価格の商品が発売されていること、及び直行便が再開されることから多様な商品が販売されており期待される。

2. 海外

台北事務所

- 定期クルーズ船の運航がないため海路での減少は著しいが、空路においても台風の影響での運休及び台湾-関空等への路線の拡充の影響を受け、若干減少した。
- 空路においては、小規模ではあるがツアーが予定されていること、及び10月にチャーター便の運航があることから増加が見込まれる。

韓国事務所

- 引き続き様々なツアー商品の売れ行きが好調なことが増加の要因である。
- 8月下旬から1便運休していることによる影響が懸念される。

上海事務所

- ツアーが実施されたことが増加の要因である。
- 9月には約200名のツアーが企画されており増加が見込まれる。

入域観光客統計概況

-平成18年9月分-

9月の入域観光客数は、490,400人。前年同月比は△0.2% (△1,000人) となった。
 1月～9月までの入域観光客数は、4,187,400人。前年同期比は+1.3% (+55,600人) で、同期間の過去最高記録となった。

1. 国内外別入域状況

国内：	483,900人	前年同月比	+ 5,600人	(+ 1.2%)
海外：	6,500人	前年同月比	△ 6,600人	(△50.4%)
合計：	490,400人	前年同月比	△ 1,000人	(△ 0.2%)

2. 主要航路別入域状況

東京：	241,100人	前年同月比	+11,500人	(+ 5.0%)	構成比49.2%
関西方面：	98,200人	前年同月比	+ 1,100人	(+ 1.0%)	構成比20.0%
(内訳) 伊丹：	24,700人	前年同月比	△30,100人	(△54.9%)	構成比 5.0%
関西：	46,500人	前年同月比	+ 4,200人	(+ 9.9%)	構成比 9.5%
神戸：	27,000人	新規路線	(平成18年2月16日～運航)		構成比 4.1%
福岡方面：	55,900人	前年同月比	△ 1,700人	(△ 3.0%)	構成比11.4%
(内訳) 福岡：	52,800人	前年同月比	△ 4,800人	(△ 8.3%)	構成比11.6%
北九州：	3,100人	新規路線	(平成18年3月16日～運航)		構成比 0.4%
名古屋：	36,700人	前年同月比	△ 2,400人	(△ 6.1%)	構成比 8.7%

3. 概況と見通し

国内客については、初旬に大きく伸びたものの、中旬の台風の影響、及び連休が昨年より1回少なかったことから、堅調な推移となった。

外国客については、空路においては前年並みであったが、海路においては定期クルーズ船の運休が続き、減少している。

今後の見通しとしては、国内客については、予約が好調なこと、修学旅行シーズンを迎えることから、好調に推移すると思われる。

外国客については、空路においては、ウチナンチュ大会参加者のチャーター便等もあり、好調に推移すると思われるが、海路においては厳しい状況が続くと思われる。

担当：観光企画課 糸洲
 TEL 098-866-2763
 FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 個人旅行、団体旅行共に、順調に推移したことから前年実績を上回った。
- 修学旅行シーズンを迎えることや航空会社による沖縄キャンペーンの展開があることから、順調に推移するものと思われる。

大阪事務所 (関西地区)

- 夏休み明けの航空運賃の低価格化による格安商品の造成がなされたこと、決算期による旅行代理店の販売強化があったことから、前年実績を上回った。
- 修学旅行のシーズンを迎えることから、堅調に推移すると思われる。

福岡案内所 (九州・山口地区)

- 9月中旬の台風の影響を受け、日程の切り上げやキャンセルが相次ぎ、前年実績を下回った。
- 10月は小規模の団体旅行が伸びているため、堅調に推移すると思われる。11月は個人旅行が順調に伸びている模様である。

名古屋情報センター (名古屋地区)

- 10月上旬の低価格航空運賃の影響により10月にシフトしたと思われ、前年実績を下回った。
- 10月は予約状況が好調なことから順調に推移していくと思われる。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 直行便が再開し、9月上旬頃までは予約が好調であったが、後半が不調であったため、前年実績を下回った。経路便は前年を上回った模様である。
- 10月は連休前後の予約が好調に推移していること、及び、修学旅行のシーズンを迎えることから堅調に推移するものと思われる。

2. 海外

台北事務所

- 空路においては、台風による運休もなく、若干増加したが、定期クルーズ船の運航がないため海路での減少は著しい。
- 空路においては、小規模ではあるが、チャーター便の運航が予定されているため、若干の増加が期待される。海路においては、定期クルーズ船の運休が続いているため増加は見込めない。

韓国事務所

- 8月下旬からの1便の運休の影響は特になかったこと、及びハネムーンのシーズンが到来したことから、好調に推移した。
- 10月下旬から、週1便が運休になるため、商品造成が難しくなることが予想される。

上海事務所

- 社員旅行のツアーがあり、大幅な増加となった。
- 沖縄発の日本人ツアーの帰国便で座席が埋まることが多く、商品造成が難しい中、ハネムーンを中心としたツアーを造成する予定であり、順調に推移すると思われる。

入域観光客統計概況

－平成18年10月分－

10月の入域観光客数は、519,900人。前年同月比は+8.3% (+40,000人)で、同月としては初めて50万人を超え、過去最高の記録となった。

1月～10月までの入域観光客数は、4,707,300人。前年同期比は+2.1% (+95,600人)で、同期間の過去最高記録となった。

1. 国内外別入域状況

国内：	509,000人	前年同月比	+43,200人	(+9.3%)
海外：	10,900人	前年同月比	△3,200人	(△22.7%)
合計：	519,900人	前年同月比	+40,000人	(+8.3%)

2. 主要航路別入域状況

東京：	249,500人	前年同月比	+26,200人	(+11.7%)	構成比48.0%	
関西方面：	90,000人	前年同月比	+8,200人	(+10.0%)	構成比17.3%	
(内訳)	伊丹：	25,100人	前年同月比	△23,400人	(△48.2%)	構成比4.8%
	関西：	44,800人	前年同月比	+11,500人	(+34.5%)	構成比8.6%
	神戸：	20,100人	新規路線	(平成18年2月16日～運航)	構成比3.9%	
福岡方面：	59,500人	前年同月比	+2,000人	(+3.5%)	構成比11.4%	
(内訳)	福岡：	56,600人	前年同月比	△900人	(△1.6%)	構成比10.9%
	北九州：	2,900人	新規路線	(平成18年3月16日～運航)	構成比0.6%	
名古屋：	43,900人	前年同月比	+5,200人	(+13.4%)	構成比8.4%	
札幌：	9,400人	前年同月比	+200人	(+2.2%)	構成比1.8%	

3. 概況と見通し

国内客については、世界のウチナーンチュ大会やサントピア沖縄ふれあいフェスタ等イベントが開催されたこと、及び、航空会社のキャンペーンの実施により、10月単月として、初めて50万人を超えた。

外国客については、空路においてはウチナーンチュ大会参加者のチャーター便等もあり順調に推移したが、海路においては定期クルーズ船の運休の影響が続いている。

今後の見通しとしては、国内客については、予約が好調なこと、引き続き航空会社のキャンペーンが実施されること、修学旅行シーズンであることから、好調に推移すると思われる。

外国客については、ツアーが企画されていること等により、好調に推移するものと思われる。

担当：観光企画課 糸洲
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 修学旅行が伸びたことやウチナーンチュ大会の開催、及び10月上旬の低価格航空運賃の設定などにより個人旅行商品も好調に推移したことから、前年実績を上回った。
- 修学旅行シーズンであることや、一般団体が引き続き好調に推移していること、個人旅行商品の動きも良いことから順調に推移するものと思われる。

大阪事務所 (関西地区)

- 年度後半に向けての航空会社のキャンペーンが始まり販売が強化されたこと、及び団体旅行商品が好調だったことから、前年実績を上回った。
- 予約状況が良いことから、堅調に推移するものと思われる。

福岡案内所 (九州・山口地区)

- 10月に入り、イベントがほぼ週末毎に開催され、そのイベントに参加するための個人旅行商品や小口の職場旅行が増えたため、堅調に推移した。
- 11月も引き続き、小口の職場旅行等の団体旅行が順調であること、個人旅行商品の売れ行きも良いことから堅調に推移するものと思われる。

名古屋情報センター (名古屋地区)

- 夏に比較して航空運賃、宿泊料金が抑えられていることから、前年実績を上回り順調に推移した。
- 予約状況の動きが若干鈍いこと、離島直行便が廃止されたことが懸念材料であるが、堅調に推移するものと思われる。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 個人旅行商品が順調に推移したことから、前年実績を上回った。経由便も前月に引き続き順調であった。
- 週末の低価格航空運賃の影響もあり、週末の個人旅行は順調に伸びている模様であるが、そのほかの出発日の予約状況が鈍い傾向にある。

2. 海外

台北事務所

- 空路においては、チャーター便の運航もあり、ほぼ前年並みであったが、定期クルーズ船の運航がないため海路では減少した。
- 12月に予定されている首都台北及び高雄の市長選挙の影響もあり、旅行マインドが落ち込んでいるため、若干落ち込みが懸念される。

韓国事務所

- 複数の旅行社で販売する連合商品が堅調に推移していること、及び10月初旬の旧盆の連休が長かったこともあって、前年実績を大幅に上回った。
- いくつかのツアーが企画されているので、前年の実績は上回ると思われるが、その他では、10月下旬から週1便が運休になり商品造成が難しくなるため、徐々に影響が懸念される。

上海事務所

- 社員旅行のツアーが週一回のペースで実施されたことにより、大幅な増加となっている。
- 商品造成の厳しい中、ハネムーンのツアー及び、社員旅行のツアーも予定されており、順調に推移するものと思われる。

入域観光客統計概況

－平成18年11月分－

11月の入域観光客数は、474,500人。前年同月比は+6.1% (+27,300人)で、同月としては過去最高の記録となった。
 1月～11月までの入域観光客数は、5,181,800人。前年同期比は+2.4% (+122,900人)で、同期間の過去最高記録となった。

1. 国内外別入域状況

国内：	462,000人	前年同月比	+20,600人	(+ 4.7%)
海外：	12,500人	前年同月比	+ 6,700人	(+ 115.5%)
合計：	474,500人	前年同月比	+27,300人	(+ 6.1%)

2. 主要航路別入域状況

東京：	218,100人	前年同月比	+15,800人	(+ 7.8%)	構成比46.0%
関西方面：	77,400人	前年同月比	+ 2,600人	(+ 3.5%)	構成比 6.3%
(内訳) 伊丹：	20,200人	前年同月比	△18,100人	(△47.3%)	構成比 4.3%
関西：	38,600人	前年同月比	+ 2,100人	(+ 5.8%)	構成比 8.1%
神戸：	18,600人	新規路線	(平成18年2月16日～運航)		構成比 3.9%
福岡方面：	60,000人	前年同月比	+ 100人	(+ 0.2%)	構成比12.6%
(内訳) 福岡：	57,600人	前年同月比	△2,300人	(△ 3.8%)	構成比12.1%
北九州：	2,400人	新規路線	(平成18年3月16日～運航)		構成比 0.5%
名古屋：	39,100人	前年同月比	+ 800人	(+ 2.1%)	構成比 8.2%
札幌：	7,900人	前年同月比	△ 800人	(△ 9.2%)	構成比 1.7%

3. 概況と見通し

国内客については、団体旅行の好調な伸び、航空会社のキャンペーンがあったことから好調に推移した。

外国客については、海路において、クルーズ船の寄港が2回あり、大幅な増加となった。

今後の見通しとしては、国内客については、年末年始を含め、予約状況が好調なこと、引き続き航空会社のキャンペーンが実施されること、修学旅行が増加していることから好調に推移すると思われる。

外国客については、増便があることなどから、堅調に推移するものと思われる。

担当：観光企画課 糸洲
 TEL 098-866-2763
 FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 修学旅行及び団体旅行が好調に推移したことにより前年実績を上回った。
- 個人旅行商品の動きが鈍いが、修学旅行が引き続き好調なことから順調に推移するものと思われる。

大阪事務所 (関西地区)

- 神戸空港開港に伴うキャンペーンが一段落しているが、継続的な沖縄需要により、好調に推移した。
- 伊丹空港発着便の減便の影響があるものの、関西空港、神戸空港利用者の増加があり、堅調に推移すると思われる。

福岡案内所 (九州・山口地区)

- 小口の職場旅行が増えていること、航空会社のキャンペーンの効果もあり、離島方面が順調に伸びていることから、堅調に推移した。
- 離島へのゴルフツアーの予約状況が順調なこと、年末年始の予約が順調なことから、堅調に推移するものと思われる。

名古屋情報センター (名古屋地区)

- 離島直行便廃止の影響が懸念されたが、むしろ、那覇便に振り替えて離島に向かった人が増加し、順調に推移した。
- 予約状況が好調であることから順調に推移するものと思われる。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 経由便利用商品に比較しての割高感から直行便の利用者が移行していることが減少していることの要因と思われるが、経由便利用商品の伸びは好調であり、前年を上回っている見込みである。
- 12月から直行便に限り、機内サービスの付加を図り利用促進策を行う予定であり、効果が期待される。経由便利用商品を含めたマーケットは堅調に推移すると思われる。

2. 海外

台北事務所

- 12月の首都台北及び高雄の市長選挙の影響及び10月の連休の反動などで、市場全体の動きが悪く、減少した。
- 那覇マラソン関連のツアーが企画されたこと、那覇空港国際線出発旅客に対する保税販売の開始が台湾において広報されたことによる効果が期待される。

韓国事務所

- 複数の旅行社で販売する連合商品が堅調に推移していること、ツアーの企画があったこと、避寒地としてのイメージが宣伝され、前年実績を大幅に上回った。
- 増便が予定されていること、及び、予約状況から順調に推移するものと思われるが、前年まであったゴルフツアーが今年度は企画されていないため、その影響が懸念される。

上海事務所

- 大型のツアーがなかったため、小幅な伸びであったが、堅調に増加している。
- 商品造成の厳しい状況が続いていること、知名度不足等によるハネムーンのツアーの集客に苦戦していること、及び、オフシーズンであることから、伸び悩みが懸念される。

入域観光客統計概況

－平成18年12月分－

12月の入域観光客数は、455,100人。前年同月比は+3.2% (+13,900人)で、同月としては過去最高の記録となった。

1. 国内外別入域状況

国内：	449,400人	前年同月比	+14,400人	(+ 3.3%)
海外：	5,700人	前年同月比	△ 500人	(△ 8.1%)
合計：	455,100人	前年同月比	+13,900人	(+ 3.2%)

2. 主要航路別入域状況

東京：	217,000人	前年同月比	+13,900人 (+ 6.8%)	構成比47.7%
関西方面：	77,900人	前年同月比	+ 100人 (+ 0.1%)	構成比17.1%
(内訳) 伊丹：	23,800人	前年同月比	△17,300人 (△42.1%)	構成比 5.2%
関西：	37,000人	前年同月比	+ 300人 (+ 0.8%)	構成比 8.1%
神戸：	17,100人	新規路線	(平成18年2月16日～運航)	構成比 3.8%
福岡方面：	55,700人	前年同月比	△ 1,100人 (△ 1.9%)	構成比12.2%
(内訳) 福岡：	53,700人	前年同月比	△3,100人 (△ 5.5%)	構成比11.8%
北九州：	2,000人	新規路線	(平成18年3月16日～運航)	構成比 0.4%
名古屋：	39,300人	前年同月比	+ 200人 (+ 0.5%)	構成比 8.6%
札幌：	6,400人	前年同月比	+ 100人 (+ 1.6%)	構成比 1.4%

3. 概況と見通し

国内客については、修学旅行生が増加したこと、年末の入域観光客数が好調に推移したことにより、前年実績を上回ったが、外国客については、全体としては前年実績を下回った。

今後の見通しとしては、国内客については、年始の入域観光客数が好調なこと、個人旅行商品の予約状況も好調なことから堅調に推移すると思われる。

外国客についても、ツアーの企画もあることなどから、堅調に推移するものと思われる。

担当：観光企画課 糸洲
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 修学旅行が好調に伸びたこと及びスポーツイベントの開催があったこと等から順調に推移し、前年実績を上回った。
- 3連休を中心に好調であること、イベント関連の旅行商品の予約状況も良いことから順調に推移するものと思われる。

大阪事務所 (関西地区)

- 神戸空港開港1周年キャンペーンを航空会社及び旅行社が行っていることにより、堅調に推移した。
- 阪神タイガース応援ツアーの企画もあり、堅調に推移すると思われる。

福岡案内所 (九州・山口地区)

- 年末の予約状況は前年よりやや好調であったが、近県への温泉旅行等の需要が高く、前年実績を下回った。
- 低価格の旅行商品の状況が良いが、大口の団体旅行の予約があまり見られないことから、苦戦が懸念される。

名古屋情報センター (名古屋地区)

- 避寒地を求める年配客を中心とした団体旅行商品及び若年層のフリーパック商品が堅調に推移したことから前年実績を上回った。
- 最も寒い時期をこれから迎えるため避寒地のイメージが定着しつつある中、好調に推移するものと思われる。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 直行便は機内サービスの付加による効果もあり若干増加し、経路便利用商品を含めたマーケットも堅調に推移した。
- 北海道日本ハムファイターズが日本一になったことにより、名護キャンプ観戦ツアーの新商品が大々的に売り出されていること及び他にも多様な商品の販売が強化されており、前年実績を上回ることが期待される。

2. 海外

台北事務所

- 12月の首都台北及び高雄の市長選挙及び、台湾-日本の他地域への路線の定期便の増加の影響があり、前年実績比減少した。
- 2月の春節時期の連休が昨年より長く設定があること、チャーター便の計画があることから若干の増加が期待される。

韓国事務所

- 提供座席数が増えたことにより、冬場のシーズンに向けての商品造成が可能になったこと及びツアーの企画が好調なことから前年実績を大幅に上回った。
- 予約状況から順調に推移するものと思われるが、前年までであったゴルフツアーが今年度は企画されていないため、その影響が懸念される。

上海事務所

- オフシーズンにあたり、パックツアーの販売も特になかったため、前年実績を下回った。
- 商品造成の厳しい状況が続いていることから伸び悩みが懸念されるが、沖縄の知名度は向上しており、今後とも更なるプロモーションを推進する。